

論文番号 69

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名 (原題/訳)

The relationship between alcohol consumption, health indicators and mortality in the German population

ドイツ国民における飲酒習慣と健康指標、死亡との関連

執筆者

Hans Hoffmeister, Frank-Peter Schelp, Gert BM Mensink, Ekkehart Dietz and Dankmar Bohning

掲載誌 (番号又は発行年月日)

International Journal of Epidemiology 1999;28:1066-1072

キーワード

アルコール、ビール、ワイン、循環器疾患危険因子、 γ -GT、死亡

要旨

背景

ドイツの国民調査によるとビールやワインのアルコール総量は増加している。これらの飲酒習慣と循環器疾患、総死亡に与える影響を調べた。

方法

ドイツ国民、25歳から69歳までの男女15,409名(男性:7,677名、女性:7,732名)の調査結果である。この対象者を7年間、人年にして男性7,228人年、女性8,469人年追跡した。この飲酒習慣別にみた総死亡と循環器疾患死亡との関連を分析した。

結果

男性で80%以上、女性で55%のドイツ人が日常的な飲酒習慣があった。大多数の飲酒量は、男性の65%女性の87%が一日1~20g(Light)か21~40g(moderate)であった。HDL-コレステロールと γ -GTは飲酒量とともに増加していた。絶対禁酒者と比較して、LightとModerate飲酒者は、HDLコレステロール、トリグリセリド、血圧、肥満度と関係はなかった。一日1~20gを飲酒する男性では、有意に総死亡や循環器疾患死亡が低く、全く飲酒しない集団と比べて、危険度は約5割低かった。

今回の対象者において、男性のビール飲酒者のアルコール量は一日21~40gが35.8%と最も高く、ついで41~80g/day(29.3%)であった。女性は1~20g/dayが64.1%、21~40g/dayが27.4%であった。

ワイン飲酒者のアルコール量は男性21~40gが50.6%、41~80g/dayが23.9%であった。(女性:1~20g/dayが42.6%)

まとめ

Lightな飲酒、すなわち一日1~20gを飲酒する集団で循環器疾患死亡や総死亡する危険が低くHDLコレステロールとほどよい関係であった。